

平成 30 年度 あべの翔学高等学校 学校評価

I めざす学校像

- 1 人徳を経とし実務を緯とする
人徳と実務を兼ね備え、将来、社会で貢献できる生徒を育成することを建学の精神とし、「立志、礼節、誠実、勤勉」を校訓とする。
- 2 学力だけでなく「こころ」の面での成長を大切に、生活指導面での厳しくもきめ細やかな指導をととして社会生活に適切に対応し、活躍できる教育活動を実践する。

II 中期的目標

- 1 学習指導
十分に基礎学力が備わっているとは言えない生徒が散見される。基礎学力の定着を図る。
- 2 進路指導
生徒・保護者の希望、本人の実力を勘案して、適切な進路指導を行う。
- 3 生徒指導
基本的な生活習慣の習得
- 4 生徒会・クラブ活動への積極的参加
生徒会(学校行事)、課外活動を通じ、勉学との両立を図りながら、秩序・リーダーシップ・協調性等のチームワークや人間関係の育成を図る。
- 5 保護者との一体教育
保護者とのコミュニケーションを一層密にし、適切な学習指導、進路指導、生徒指導等を行う。
- 6 安全管理
災害意識を高め、火災のみならず、地震・津波などの緊急時対策を図る。
また、救急救命の知識向上に努める。

III 本年度の取組内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習指導	(1)基礎学力の定着	a 学期初の習熟度調査による習熟度別個別教育実施	a 学期最初の実力テストから期末実力テストへの成績 20%向上を目標にあげる。	英語、国語、数学の3教科については1学期末考査から学年末考査への成績アップは無かったが、前年度学年末考査に比べ、3教科合計点で3ポイント向上した。 基礎学力は身に付けてきているので、今後は個人別に弱い分野を見極めて、学習指導出来るように体系立てて指導してゆく。

2 進路指導	(1)進路指導対策の早期実施	a 進路希望調査の早期開始、早期対策	a 四年制大学進学率 50%以上	平成 30 年度生(平成 31 年 3 月卒業)の進路結果は以下のとおり。 進路先 人数(構成比) [対前年] 大学 47 名(43%) [+ 9%] 短大・専門 46 名(42%) [+ 5%] 進学未定 2 名(2%) [△7%] 就職他 14 名(13%) [△7%] 合計 109 名(100%) 前年に比べ四年制大学進学者が 9%増加しているが、目標である 50%には届かなかった。今後ともきめ細かな進路指導を継続して実施してゆく。
	(2)関西圏私立大学への知名度向上	a 有名私立大学の学部・学科説明会	a 参加大学数 50 校以上(4 年制 36 校、以外 12 校)	説明会参加校は、4 年制 36 校、以外 12 校以上であった。 指定校推薦枠大学 68 校、短期大学 38 校、専門学校 125 校を確保。
3 生徒指導	(1)基本的な生活指導の習得	a 遅刻指導強化期間の設定 b 服装、身嗜み指導の徹底 c 人権教育の徹底	a 遅刻回数の削減に努める 10 回/人年以下を目標とする。 b 通学路立ち番指導 100% c 人権教育回数 4 回	遅刻回数の学年別推移は以下のとおりである。(回/人年) []が平成 30 年度実績 1 年次 2 年次 3 年次 3 年 14.0 9.9 [14.4] 2 年 11.6 [19.3] - 1 年 [12.0] - - 各学年とも前年度に比較して遅刻回数が増加しており、目標である 10 回/人年以下には至っていない。特に 2 年生において 19.3 回と高校生活 2 年目の中弛みが顕著となっている。 今後は、2 年時のモラル向上を図るため指導を徹底する。 人権教育については目標を達成できていると思われるが、教員の目が届かない休憩時間でのいじめ等の防止に努めることとする。

4 生徒会・クラブ活動	(1)クラブ活動の活性化	a クラブ参加率の向上 b 市大会、府大会等での成績向上	a クラブ参加率 40%増 1・2年生 50%増 3年生 30%増 b 軟式野球部、軽音楽部、吹奏楽部の大会成績向上	運動系クラブでは、軟式野球部が創部3年目にして近畿大会で優勝し、全国大会出場・準決勝に進出することができました。なお、令和元年度茨城県国民体育大会にも出場予定です。(令和元年度) 文化系クラブでは、吹奏楽部が関西吹奏楽コンクールにおいて金賞ゴールドを受賞しました。(令和元年度) これらの功績により、他の運動部、文化クラブにおいても生徒達の毎日の練習に対する取組が変わってきています。
5 保護者との一体教育	(1)保護者とのコミュニケーション緊密化によるきめ細かな生徒指導	a 保護者懇談週間開催時期の見直しにより、生徒、保護者との懇談内容充実 b 保護者との情報共有教科	a 保護者懇談週間時期・回数 時期：6・11月 回数：2回 b Webでお知らせ開封率80%以上	保護者懇談会は、年2回実施。 Webでお知らせ開封率は80%をめざしたが70%台に留まっている。 Webでお知らせは単なる一方通行の連絡に留まらず、双方向での情報交換が出来るようにITシステム強化を検討する。
6 安全管理	(1)人命の尊さに対する意識高揚	a 非難訓練実施による危機管理教育の実施 b 救急救命講習の実施による人命救助教育の実施	a 地震非難訓練の実施 年2回実施 出席率90% b AEDを使った救急救命教育の実施 出席率90%	校舎外壁のブロック塀を金網フェンスに改修し、地震災害対策を完了した。なお、運動場のブロック塀は令和元年度に改修完了の予定。 火災非難訓練を実施。引続き1回/年以上の実施を検討する。

IV 総合評価

評価	自己評価	次年度の改善方針
C	軟式野球部が近畿大会優勝、全国大会出場、吹奏楽部が関西吹奏楽コンクールで金賞ゴールドを受賞した(令和元年度)ことなど、活発なクラブ活動が実績として現われてきたことは大いに評価できる。 一方、遅刻回数は依然として低水準であり、大学進学状況も進学率は向上しているものの関西有名私立大学への進学実績は殆どなく、生徒の学ぶ姿勢を改善する必要がある。	遅刻指導、進路指導、テスト返却などあらゆる場面において生徒一人ひとりと面談を行い、生活面・学習面での姿勢を改善して行く。

V 学校関係者評価

今年度の重点目標	学校関係者評価委員会意見	次年度の改善方策
基礎学力の定着	各生徒の中学校で養ってきた基礎学力は向上していると思います。生徒一人ひとりの不得意教科、分野を克服できるよう指導をしてください。	各生徒の学力に応じたきめ細やかな学習指導をお願いしたい。
進路指導	4年制大学への進学率が上がってきたことは大きな成果と思います。 1年生の時からから苦手教科対策、受験教科対策などを更にお願ひします。	先輩の成功事例を後輩に伝えてゆく等、新たな校風を築いていくようお願いひします。
生徒指導	基本的な生活習慣が出来ていない生徒が多くいます。遅刻する生徒への罰則強化ではなく、高校生として身に付けるべきルールと、そのルールに対する考え方を教えて頂きたく思います。	昨年と同様、一部の生徒に遅刻が偏っている感がある。 罰則の強化だけでは生活習慣の改善には結びつかないと思われる。生徒個別のフォローアップをお願いする。
生徒会・クラブ活動	軟式野球部、吹奏楽部は地区大会で優秀な成績を挙げることが出来た。先生の熱心なご指導に感謝します。	スポーツ専攻科の新設が運動系クラブの活躍を生んで行くと思います。活気ある校風の醸成に期待しています。
保護者との一体教育	「Webでお知らせ」は連絡手段としてしか利用されていないと思う。	「Webでお知らせ」を有効活用し、学校・保護者間での双方向コミュニケーションツールとして活用していけば良いと思います。
危機管理	災害対策、避難マニュアルなどは学校、生徒にも充分周知されてきたと思う。	不審者侵入対策、防犯対策について施錠管理に留まらず、地域をあげた危機管理強化活動を推進して頂きたい。
総合評価	入学者数が減少し学校自体に活気が無くなった頃の状態は終了し、生徒数の増加と共に生徒、教員の振る舞いも明るくなったと思います。 教職員の丁寧な指導に感謝いたします。	カリキュラムの定着化、教員の定着化を図り、安定した環境で学習できる体制を確保して頂きたい。

学校関係者評価委員会構成

- 評価委員長 : あべの翔学高等学校PTA会長
 評価委員 : あべの翔学高等学校呉竹同窓会会長
 評価委員 : 奈良佐保短期大学キャリア支援センター長